

＜準備編＞ このページは子供向けに書いています。

2009.12月作成

用意する物 生たまご

包丁（くだものナイフや切れない包丁でも十分）、つまようじ

まがるストロー

たまごの中身をうけるボウルやおわんなど

①たまごのカラに傷をつけて穴を開けます。

・包丁の刃元（写真）の部分を使ってカラをコツコツたたいて、ストローが入るくらいの穴（直径1cm弱で十分）になるよう、カラを割ります。

・たまごのとがった方でなく「丸いほう」に開けたほうがカンタンなので、初心者にはオススメ。



※次のページの作品では作るものによって穴をあける位置が違います。作りたいものを考えてからカラの準備をしましょう。特に横側に穴をあけるときは、ヒビが入りやすいので注意してがんばりましょう。

【豆知識】ひよこがカラを割って出てくるとき、横側に穴を開けることが多いです。横側が割れやすいのがわかっているんだね！

②割ったカラをなるべくきれいに取り除きます。（つまようじなどを使っても）

③ストローをまげて短いほうを差し込みます。（黄身にささらない方があとで洗いやすいので、カラに沿わせるようにして黄身をよけて差し込みます）

④ボウルなどの上で、穴を下に向け、ストローから一気に息をふき込むと、ストローとカラのすきまから中身が出てきます。空気の力で中身を押し出すのです。

（たまごの中身は、料理やお菓子作りなどに使っておいしく食べてね！）

⑤カラの中に水を半分くらい入れ、穴を指で押さえてよく振ります。中の水は出にくいので④同様にストローで息をふき込んですてます。3～4回洗います。

⑥外側の水気をふき、中の水が切れるよう、穴を下にしてしばらくおいておきます。

⑦穴を上に向けて3～4日、中をよ～く乾燥させます。

※よく洗ってよく乾燥しないと、あとでせっかくの作品にカビが生えちゃうよ！

※失敗しても気にせず、どんどん作ろう！ そして、たまごをたくさん食べてね！

たまごのカラで遊ぼう

神奈川県畜産技術センター

<制作編：クリスマスオーナメント>

<用意するもの：1個分の材料>

よく乾燥したたまごのカラ1個

(穴はどこでもよいが、積極的に見せたくなければ横にあけ、見えないよう後ろに回す)

リボン幅1.5cmくらい16cm、ぶら下げ用のひも10~15cm、

透明か白のストロー、紙1.5cm角、木工用ボンド、水性ニス、

リボンの色にあわせたアクリル絵の具、筆

押さえ用に洗濯ばさみやダブルクリップなど2個



作り方の流れ

リボンを作り→たまごの穴をふさぎ→リボンをたまごにつけ→ニスをぬる だけ!

①リボンの長さはたまごの大きさ、リボンの太さを見て、自分の好みに作りましょう。

(基本は普通のMサイズたまごで上リボン9cm、下リボン7cm)

ストローを好みの色にぬり、乾いたらハサミで5ミリほどの輪切りにします。(たまごの数だけ一気に作ってしましましょう)

上リボン：リボンの中心に向けて左右から折り返し、ボンドでとめ、洗濯ばさみなどで押さえて乾かします。アウ

下リボン：両端をカットし、中心部分を斜めに折り、ボンドをつけ、洗濯ばさみで押さえて乾かします。イウ

上リボンの中心をつまんでヒダをつけ、ストローに通し、きれいに整えます。

ストローにぶら下げ用のひもを通して好きな長さの輪を作ります。エ

上リボンの裏にストローごとたっぷりのボンドを付け下リボンに貼り、乾かします。オ



②たまごの穴をふさぎます。(穴が枝などに引っかかって危ないので)アクリル絵の具で好きな色をぬった紙を好みの形に切り抜いて、ボンドをつけてふさぎます(シールなどでも可)。金色・銀色などが素敵かも…。

③たまごのとがったほうにボンドでリボンをつけます。

④ボンドが乾いたら、リボンにつけないように注意してカラの部分にニスをぬります。

出来上がり！(お好みにカラに絵をかいても)



たまごのカラのポプリ入れ (クリスマスオーナメントにしても！)



<用意するもの：1個分の材料>

よく乾燥したたまごのカラ1個 (穴は丸いほうにあけたもの)

ひもをつけた飾りリボン (前のページ参照)、底穴ふさぎ用の紙、水性ニス、
工芸用グラインダー※、金ヤスリ、木工用ボンド、好みのポプリ

・汚れ防止に新聞紙などの上で作りましょう。

※ガラス工芸用などに売っています。ここでは
細めのヤスリをつけて使います。→

(歯医者さんのヤスリのような物。ルーターと呼ぶことも。)



<作り方>

- ①グラインダーを使ってたまごの上1/2～2/3部分に好みのデザインで穴を開けていきます。
(ポプリが出ない穴。多くあけると強度が足りなくて壊れやすくなるため、上写真を参考に)
- ②グラインダーを使って底になる部分の穴を、ポプリが入れられる大きさまで丸く広げます。
(ポプリにもよりますが、直径1.5～2cmくらい)
- ③穴の回りの薄皮を金ヤスリで落とします。
- ④前頁で作ったようなりボン飾りをボンドで貼り付け、乾かします。
- ⑤④が乾いたら、好みでカラにニスをぬります。(ぬらずに素焼き風を楽しんでも)
- ⑥乾いたら底からポプリをつめ、好みの形に切った紙にボンドをつけ、底穴をふさぎます。



←底から見たところ (ここでは和紙を使いました)
シールなどはがしやすいものにして、ポプリを入替えて楽しんでも。